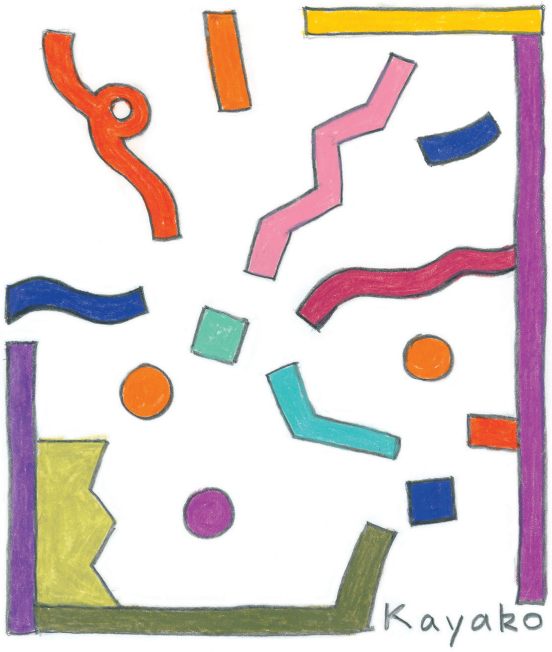
母のひろば 680

doshinsha / haha no hiroba



ことばのなかのこどもたち⑨／今井和子　2
耳で聞く小さなおはなし④「ホンのちょっぴり」／村中李衣、石川えりこ　3
2021年新春特集「これからの保育―保育現場から見えてきたこと」
／相川明子、佐々木雄大、白川ひとみ、松本崇史、溝口義朗　4
まるまるめいた日記⑩／種村有希子　7
イラスト／西巻茅子

今年はどんな年

那須正幹

激動の2020年も暮れて、新年を迎える。本来ならば祝辞の１つでも述べたいところだが、正直そんな気にもならないこの頃だ。新型コロナの蔓延はとどまる気配もなく、人々の生活に暗い影を落としている。

それにしても、21世紀の今日、１個の病原体が、世界を支配するという状況は予想もできなかったし、感染が拡大し始めた昨年２月の段階でも、危機感を持った人は少なかったのではないだろうか。しかし、それが現実に起こったのである。先の大戦を経験した人も、爆弾による破壊は知っていても、目に見えぬウイルスの攻撃は初めてで、それが及ぼす多大かつ深刻な影響も理解の範囲を超えていたのである。

もちろんその道の専門家は、事あるごとに警鐘を鳴らし続けていたが、為政者には、支持率や株価のほうが重要で、せいぜい不良品のマスクを配るくらいしか対処の方法を知らなかった。一方庶民のほうは、コロナ恐怖症からヒステリー状態に陥り、自粛警察が他県ナンバーの車を締め出したり、感染者を犯罪者扱いするなど、排他的行動をとるようになった。こうした傾向は世界各地に起こり、自国第一主義的傾向をますます強めることになった。

日本では無策の為政者が突然政権を投げ出し「実行力のある総理」が登場したが、まず実行したことが、日本学術会議の新規会員任命拒否という暴挙である。コロナ禍により、庶民が無抵抗、あるいは新政権頼みを良いことに、以前にもまして、国会無視、官邸主導の強権をふるい始めた。

もっとも「Go Toキャンペーン」も、感染者急増の前に、軌道修正を迫られているし、携帯料金値下げも、目下のところ企業側の抵抗にあってとん挫している。「桜を見る会」訴訟の行方も気になるところだ。

要するに、いま政治に求められているのは、新型ウイルスから国民をいかにして守るかということで、そのための具体的な施策をスピード感をもって実行することだろう。外国のワクチン頼みだけでは、国民を守ることはできないし「会食は４人まで、短時間におえましょう」などという、マナー指導は、為政者のやることではない。

と、まあ、あれこれグチめいたことを書いてきたが、それもこれも昨年以来悪いことばかり続き、新年を迎えての期待や、希望がまるで持てないからである。

せめて今年こそは、人々が冷静な判断力を持って行動し、さらに言えば、衆議院選挙で、政治の流れをかえられることを願って、新年の祝辞にかえたいと思う。

（なす　まさもと／児童文学作家）

ことばのなかのこどもたち

9

今井和子

いまい　かずこ／子どもとことば研究会代表。二十三年間の保育士勤務ののち、立教女学院短期大学教授などを歴任。主な著作に『0歳児から5歳児―行動の意味とその対応』（小学館）『子どもとことばの世界』（ミネルヴァ書房）などがある。

●散歩先で、飛行機がまっ青な空に白い線を描きながら飛んでいくのを見た、えりちゃん（3歳）

「ひこうきが　おそらに
らくがきしてる！」

●洗濯物が竿にひらひら揺れているのを見た、そうくん（3歳）

「せんたくものって、
てつぼうが　じょうずだねえ」

●風邪をひいてしまったみかちゃん（3歳）が、鼻をヒュウヒュウならしながら、

「みかちゃんの　はなのなかに、
ふえが　はいっているよ」

アニミズムのことばが開花する

想像力が著しく発達する二、三歳のころから、子どもたちは外界のあらゆるものに自分と同じように命や感情や意思が宿っていると思い込み、外界を自分と一体化させて感じ取ります。これを心理学者のピアジェは「アニミズム思考」と指摘しています。

この時期の子どもたちが語ることばに耳を傾けてみますと、このアニミズムの心から発せられたことばが実に豊かで、まるで詩の世界にいるような喜びに浸れます。

蝶々を見て、みはるちゃん（4歳）

「ちょうちょって、しごと
いかないんだよね」

いろいろな対象に同化しながら感じ取る自由さの中で、子どもたちは現実にとらわれない解放された世界に遊ぶ楽しみを養っているのではないでしょうか。

耳で聞く小さなおはなし④

「ホンのちょっぴり」

文・村中李衣　絵・石川えりこ

おふとん いろいろ

小さいころに使ってた私のお布団はね、ずっしり重くて、押し入れの中からひっぱり出そうとするとひっくり返って、その上に布団がどさり、なんてことがしょっちゅうあったんだ。

そういう時にはね、落ちてきたお布団の右のはしっこをよいしょと三角に折って、反対側も、よいしょと三角に折って、着物みたいな形にして、その真ん中にすっぽり入るの。ひんやりして泥つきショウガがカビたにおい。布団の着物は重たすぎて動けない。私は薄暗い部屋の真ん中で、いつもひとり、布団のお雛様。

この話を友達のエリちゃんに話したら、ふふふって。

「昔はさ、ぺしゃんこになった古いお布団を新しくするために、自分の家で綿を打ち直してたよね。ほら、綿を布団サイズに合わせて少しずつ少しずつ四方に伸ばしていくのってすっごく面白いじゃない。この上踏んだら絶対駄目よ！　って大人たちは言うけど、うす～い雲の絨毯みたいで、あの上を歩いたらどんな感じなのかなぁって気になって仕方ない。とうとう我慢できなくなって一回だけこっそり裸足で綿の上を斜めに歩いちゃった。あの時の、やわやわして、くすぐったかった足の裏の感触、忘れられない。今でも飛行機に乗って雲海を見るたびに思い出して足がムズムズしちゃうんだ」

『ふとんやまトンネル』に出てくるけんちゃんのお布団は、もぐってもぐってどこまでも探検できるふしぎトンネル。私のは、重くて身動きできないひとりぼっちのお布団。エリちゃんのは薄くて軽い雲のお布団。だから、お布団といっしょに見た夢も、きっとみ～んな違うんだね。

ふとんやまトンネル
那須正幹・作
長野ヒデ子・絵

昨年、新型コロナウイルス感染拡大をうけて、保育現場も厳しい対応を迫られました。子どもたちが安心して過ごせる場所を、どのように作っていくのか、今も各現場で試行錯誤が重ねられています。本特集では、保育に携わる五名の方々にお話を伺いました。昨年の保育現場を振り返り、そこから見えてきた「これからの保育」について考えます。

2021年新春特集

これからの保育――保育現場から見えてきたこと

コロナ禍に強い青空自主保育

相川明子　青空自主保育「なかよし会」

二〇二〇年三月、青空自主保育の根拠地、山崎の谷戸（現・鎌倉中央公園）は、幼児から小学生までの子どもであふれかえった。なかよし会ほか五～六つの青空自主保育団体は、子どもの自主性と自然とのふれあいを大事にしたいという考えから鎌倉市内の谷戸や山で、お母さん方も保育当番となって、園舎をもたずに保育を続けてきた。当時、なかよし会では一～四歳までの幼児は二十人を三クラスに分けて、保育者二人で担当していた。二月末に突然行き場を失った小学生のきょうだいたちも受け入れることになった。大半がなかよし会出身の兄、姉たち約十人も保育に参加し、久々に山野で先輩ぶりを発揮したり、親代わりの保育当番もしたりして、大いに盛り上がった。

しかし春休みの後に新学期は訪れず、外出自粛の世の中に合わせるように、なかよし会も休みとなり、われらが谷戸も静まり返った。親たちはメールのやり取りで意思の疎通を図りつつ、孤立無援の頼りない思いをかみしめた。休校が終わり、段階的な学校再開と同時に、六月から保育も再開。最初は「密」を避けて二クラス、週に二回に留めた。竹コップでの飲料水の回し飲みや、お弁当の分け合いなどは中止した。初春を味わうことなく夏を迎えたが、市内のハイキングコースは誰も通らず、海はガラガラで占有でき、人混みに煩わされることなく、思い切り自然と触れ合うことができ、秋からは通常通り週三回の保育を続けている。子どもたちはクワの実やスイバの葉を口にくわえ、放置された草っ原で大量のムカゴをむさぼり、バッタやコオロギを捕まえ、素足に草履、冬でも半そでで、いつもの年と変わりなくどんどんたくましく育っている。親は保育に入ることで現場を見られるから、余計な口出しをしない方が子どもたちの社会性が育つことを実感している。我慢せずに自分を出し切る子どもたちの中で、生きものの取り合いやごっこ遊びの喧嘩は絶えないが、仲間は大切にかばい合う姿が基本。こんな青空自主保育こそが、親も子も成長させ、コロナ禍でも生き残る保育手段ではないかと改めて思う。

コロナの中の保育～工夫の仕方～

佐々木雄大　北区立桜田保育園　園長

桜田保育園は北区王子五丁目団地内に

ある指定管理の保育園で、園児数は百五名です。運営を開始して十年を超えたこともあり、保護者との信頼関係も強くなっています。

五月末に緊急事態宣言が解かれたあと、できることとできないことを保育課職員と確認し、今ある環境の中でより豊かな生活とより楽しい遊びを考えています。

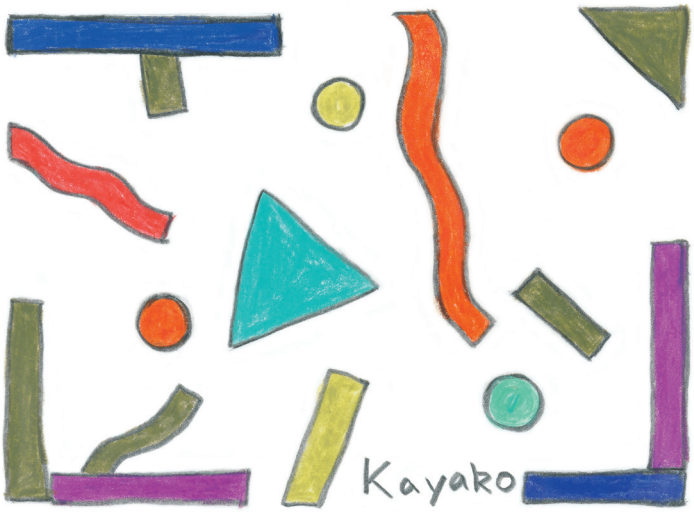
感染防止対策として、子どもたちの手洗いうがいの徹底、テーブルやドアノブなどのアルコール消毒、幼児クラスは食事をする際に透明なパーテーションを使うなど日々の対応を心掛けています。

しかし、なるべくこれまで通りに生活できるよう考え、保護者には検温しマスク着用の上で保育室に入り、担任に子どもを預けるようにしてもらっています。これは保護者と保育者のコミュニケーションを極力減らさないためです。希望があれば個人面談も受けています。この対応は看護師や栄養士とも何度も相談して決めていきました。

子どもたちは、室内遊びや園庭遊びだけでなく、「密」にならないよう行き先を考えて散歩にも出ています。友だちと関わり、楽しいことを経験することで、二カ月間の空白を徐々に埋めていき、子どもたちはしっかり育っています。

現在、報道では、子どものコミュニケーション不足や大人のマスク着用による表情の読み取りづらさなどが取りざたされています。実際にそのようなケースもあることと思いますが、保育園と家庭で連携し友だちや保育者や保護者としっかり関わりを持っている子どもは、心配するような姿が見られないこともまた事実です。

限られた環境の中でも、他者と関わり十分な経験を積めるようにと職員会議で常に話し合っています。今後も保護者と協力しながら今できるより良い保育を考え、子どもたちと笑い合い過ごせるよう試行錯誤を続けていきたいと思います。



イラスト／西巻茅子

絵本の読み聞かせで感じた子どもとのコミュニケーション

白川ひとみ　保育士

私は現在、公立保育所勤務で、三歳児十九名の担任をしています。緊急事態宣言中は、毎日五、六人の子どもが登所していました。コロナ対策で、保育者はマスクをしていますが、子どもは強制ではないので、マスクをしていない子もいるという状況でした。緊急事態宣言が解除された後は、不安定になっていないか心配していましたが、母親と自宅の中だけで過ごしていた子どもが多く、久しぶりの保育所に、楽しみに登所してくる子どもがほとんどでした。

解除直後の六月初旬にクラス全員での絵本の読み聞かせで感じたことがあります。子どもが絵本に集中しにくく、隣の子どもと喋っている状態だったのです。保育者が、マスクを付けていることで、声が届きにくいこともありますが、何よりも保育者の表情が、わかりにくいことで、絵本を楽しめていないと感じました。私は文のみを読んで、余計な言葉は発しないように気をつけています。子どもも絵を見ているだけではありません。そこには、読み手との心を通わせるコミュニケーションがあります。保育者の表情がマスクで伝わりにくいと、心を通わせるコミュニケーションがとれず、子どもの発達に少なからず影響があると、私は思いました。子どもの育ちを大切にしたいと思い、六月中旬頃には絵本の時間だけ、子どもとの距離を十分にとって、コロナ対策をして、マスクを外すことにしました。それにより以前よりも子どもは絵本の世界に入って楽しんで聞いています。

感染状況がまた拡大しています。保育所でも対策の更なる徹底のため、読み聞かせ中もマスクを着用しています。これまでの心を通わせたコミュニケーションの結果からか、子どもはマスクの中の保育者の表情を読み取っています。心が通っていると実感した出来事です。

コロナ禍の保育の中でも変わらないこと ～愛情に満たされて過ごせるように～

松本崇史　社会福祉法人任天会　日野の森こども園　園長

当園でも、五月末に緊急事態宣言が解除され、子どもたちが帰ってきました。

そこで今後の見通しを話し合いました。しかし、未来のことだけでなく、「今」の子どもの心持ちを大事にすることがいかに大切かを教えてくれた子がいます。

再び登園してきた園児のAさんは、園の生活の中で過敏な反応を示すようになりました。友だちとのふれあい、物をさわること、保育者と手をつなぐこと、人とすれ違うことなどに不安をおぼえ、顔もこわばり、手がふるえる様子がありました。手を何度も洗い、一分に一回は消毒をしていました。

コロナに対する不安感、生活リズムの変化、今までの人間関係の変化と様々な要因がAさんの心の中にうずまいた結果と考えています。

その様子を見て、まず僕自身がゴム手袋をつけて手をさしのべました。そして、話を聞くことにしました。「今」のAさんの気持ちをとにかく知りたかったのです。Aさんの言葉で。Aさんの思っていることの半分にもならないでしょう。ただ、精一杯のAさんの気持ちを感じることができました。話を聞き終えた時に泣きながら抱きついてきた感触を今でも忘れません。

そこからは保護者の方とも話し合い、クラスの子どもたちにも状況を伝え、まずはAさんが居たい所にいてもらおう、手を洗いたいだけ洗ってもらおう、としました。そして、様子をうかがいながら、少しずつクラスに戻っていってもらいました。それもAさんと何度も話し合いながらです。最後に、Aさんが満面の笑みで友だちと給食を食べた時は、心の底から安心しました。

Aさんの気持ちはなんだったのか。本当に自分たちの関わりが正解かはわかりません。ただ、その時のAさんの「今」の心持ちを知ろうとすることから始まる保育は、これからのどんな時代の保育でも変わらないと思うのです。子どもの心と言葉を聞いたうえで大人も考える。それが、任天会の法人全体で共通理解している「愛情に満たされて過ごせるように」ということだと思うのです。

気持ちの交換～新しい社会へ～

溝口義朗　東京都認証保育所ウッディキッズ園長

保育所はコロナ下でも日常を演じ、現在もその日常を必死に守っています。米を炊き、作物を育て、散歩に出かけ、川や山で遊び、つつがない毎日を必死に守っているのです。なぜか。人は暮らしの中で育つからです。暮らしは止められない。だから今日も、散歩に出かけます。

散歩道、二歳のりょうた君が畑の脇に座り込みました。「たまごがあるから、とって。このたまご、けんちゃんにあげるの」と私に話します。なるほど、卵が転がっています。若い冬瓜（とうがん）が、ダチョウの卵のような大きさで、葉の間に転がっていました。

緑色の卵。りょうた君は、畑の中に大発見をしたのでしょう。それを、けんちゃんにあげたい。発見の喜びをけんちゃんと共有したいのだと思います。夕方、りょうた君のお母さんに「冬瓜のこと」を話しました。お母さんは答えます。

「家でもよくけんちゃんのことを話します。気にいっているおもちゃを持っては、これはけんちゃんにはあげないと話しています」と。

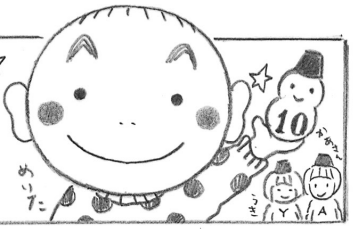
「あげたい」と「あげない」。これは相反するように見えます。しかし、そうではないのです。物の交換はなくしても、気持ちの交換と考えたならば相反はしない。

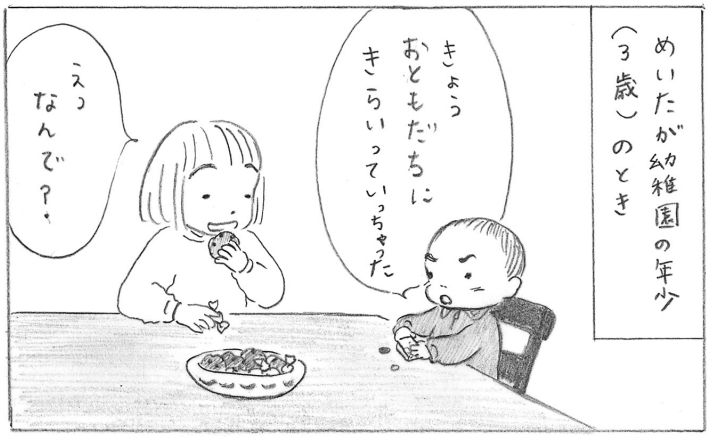
コロナ下の社会の問題は、行き過ぎた資本主義経済の脆弱性が露呈しているのではないでしょうか。子ども、貧困、社会的弱者。どんな状況であれ、気持ちの交換ができる、心を通い合わせられる社会であったならば、怯えながらもコロナ下で困る人は少なかったはずです。緊急事態宣言下の四、五月。保育所から見える社会の光景は、不安に怯えながらも、ゆっくりとした時間が人々を取り巻いていました。

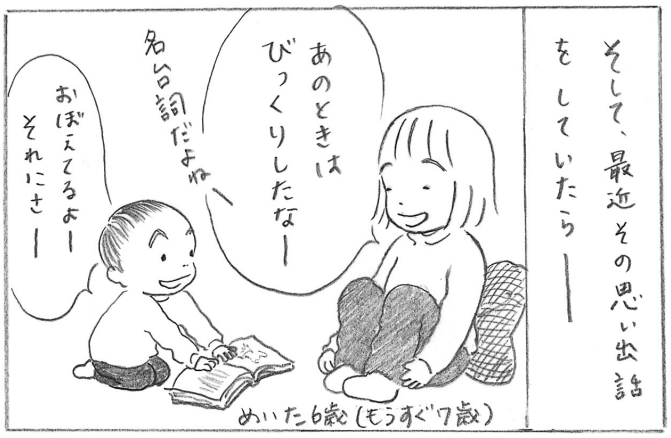
あの頃から、状況はむしろ、悪くなっています。私たちはコロナに対してどうすればいいのかはわからないままに、経済か感染予防かの二極化する社会に慣れてきて、疑問すら持っていないのではないでしょうか。一度立ちどまり、行き過ぎた経済を反省し、気持ちが流通するような経済へと変わるべきだと思うのです。

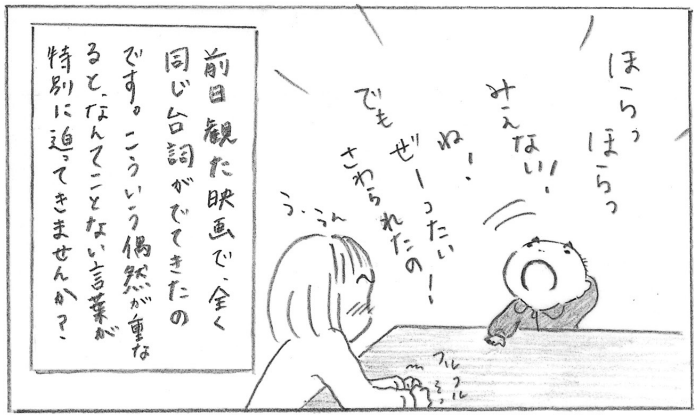
まるまるめいた日記

種村 有希子

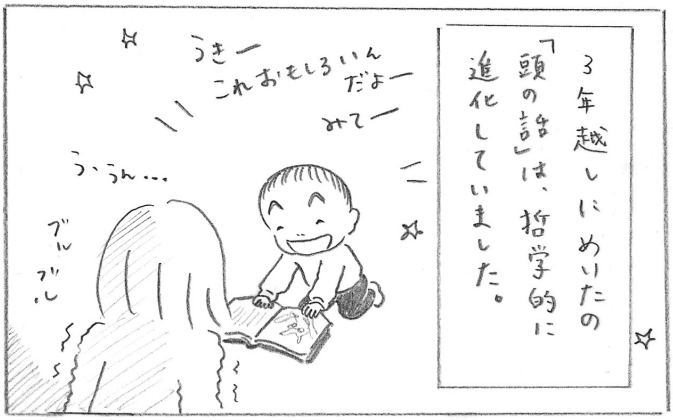








前日観た映画で、全く同じ台詞がでてきたのです。こういう偶然が重なると、なんてことない言葉が特別に迫ってきませんか？



3年越しにめいたの「頭の話」は、哲学的に進化していました。

１月の新刊図書！

てんじつきさわるえほん

いないいないばあ

松谷みよ子／ぶん
瀬川康男／え
本体価格 3600円＋税

ロングセラー絵本が、点字つきさわる絵本になりました。さわって感触や絵の形を楽しめる造本で、目が見えない子も、見える子もいっしょに楽しめます。

童心社のおはなしえほん

ちこくのりゆう

森くま堂／作
北村裕花／絵
本体価格 1300円＋税

先生、きいてえな。朝おきたら、とうちゃんとかあちゃんがカブトムシにかわっとったんや……抱腹絶倒のナンセンス絵本、絵本テキスト大賞受賞作！

単行本図書

子どものための感染症予防BOOK

パンデミックを生きぬくための101の知識

夏緑／著
ミノオカ・リョウスケ／絵
本体価格 3800円＋税

私たちのまわりにあるさまざまな感染症を、科学的に正しく理解して防ぐ、これからの時代に必要な101の知識をまとめた。

読者の声

おいしいともだち
おもちさんがね・・
とよたかずひこ／さく・え
本体価格 850円＋税

この絵本のシリーズは他にも持っていますが、おもちってなかなかない素材で、楽しく読ませていただきました。いそべもちができるまでの過程を、家庭においても見せることができるので活用していきたいです。（福島県　T・Y　五六歳）

絵本・こどものひろば
どこからきたの
与田準一／作
安泰／画
本体価格 1400円＋税

小さな虫さん、どこから来たの？　川のお水さん、どこから来たの？　そう疑問を持ち、でかけていくこねこちゃんがかわいくて、たまらないです。この小さな生き物、なんでこんなにかわいいんだろう、とおもいます。それなのに、どうして捨てる人がいるのでしょう。大切な命です。捨てられた子猫を拾ってくれた猫のお母さんに感謝したいです。（茨城県　E・T　六七歳）

単行本絵本
かえりみち
あまんきみこ／作
西巻茅子／絵
本体価格 1000円＋税

私は自分が幸せになる方法は、他の人を幸せにすることであると信じています。二歳の子にも、絵本を通じてこのことが理解してもらえるようなすてきな絵本ですね。また、終わりが「おやすみなさい」という場面なので、ベッドでゆっくり読んでいます。（岐阜県　Y・O　三八歳）

2021年１月15日発行（毎月刊）
母のひろば　第680号
定価50円（年600円／送料とも）
発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03（5976）4181
03（5976）4402（編集）
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
https://www.doshinsha.co.jp/
デザイン：谷口広樹

定期購読のご案内

お ハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただきますと、手続き完了となります。
購読料金は1年分600円（送料とも）。

あとがき

●新しい年になり晴れやかな話をしたいところですが、年始早々緊急事態宣言が発令されました。首都圏の感染爆発に暗澹とせざるを得ません。効果の程がまだわからないワクチンに現状では期待するしかないですが、いずれにせよ遠からず希望の光は見えてくるでしょう。燦々とその光が輝くまで、感染しないよう辛抱強く万全の注意を払っていきましょう。

●「牛になる事はどうしても必要です。吾々はとかく馬になりたがるが、牛には中々なり切れない」。災禍を前に慌てる気持ちを抑えられない私にとって、夏目漱石のこの言葉はじわじわと効いてきます。牛のように超然と、焦らずに黙々と、大切なものを見失わずに、図々しく進んでいきたいものです。丑年の賀状を眺めながら、そんなことを考えました。